

## 病気にどう寄り添い、どう向き合うか 池江選手の白血病公表に思う

競泳の池江璃花子選手が自身の白血病を公表し、骨髄バンクのドナー登録の関心が高まるなど、励ましの輪が広がっています。

白血病は、20歳未満の人では最も多くかかるがんであり、かつては治りにくい病気でしたが、骨髄移植や抗がん剤など治療法が大きく進歩し、以前と比較し、多くの患者が回復できる病気となっています。

### 病気に対するイメージ

現在、がん全体の5年生存率は6割を超えているにもかかわらず、根強く「死」に至るイメージがあります。

医療技術の進歩や医療体制の整備が進んでいる一方、病気についての正しい知識と理解が充分ではないため、がんや感染症、精神疾患などの病気にかかっている人やその家族等に対する様々な人権問題も存在します。特にハンセン病回復者やその家族、HIV感染者やエイズ患者等に対する根強い偏見や差別が存在しています。

### どう寄り添い、向き合うか

ハンセン病は、感染力は極めて弱く、仮に発病しても治療法が確立され完治できるようになりました。また、HIVに感染して発症する病気がエイズですが、感染の仕方や病状・治療法について、依然、誤った認識や偏見があります。

家族や友人、同僚、そして自分自身が病気になった場合、どう寄り添い、どう向き合うのか。今回の池江選手への様々な意見や対応も話題となっています。

当事者の気持ちを考えながら、病気にかかわる人が抱える生活上の問題を人権問題として捉え、その解決に向け、正しい知識と寄り添う心を持ち、行動することが重要ではないでしょうか。